

公共AIナレッジ研究会

公共AIナレッジベース 仕様 Ver.1.0

発表・内容説明

2026年5月 公共AIナレッジ研究会 総会

Public AI Knowledge Base Specification V1.0

©2026 公共AIナレッジ研究会 本文書の無断複写・転用を禁じます。

公共AIナレッジ研究会の会員は、運営委員会が別途定める利用規約の範囲で利用することができます。

本日の発表内容

01

背景と課題認識

なぜ公共AIナレッジベースが必要か

02

仕様書の全体構成

4つの文書体系の概要

03

ナレッジの4階層カテゴリ

データ・情報・ルール・常識の構造化

04

メタデータ仕様

暗黙知の可視化・128項目の設計思想

05

ID体系とコード仕様

バージョン管理とコード分類体系

06

ガバナンスと社会実装

運用体制と今後の展開

背景と課題認識

△ 現状の課題

- 1 少子高齢化による2040年問題
労働力不足・行政業務の限界
- 2 AIエージェント活用が不可欠だが
ナレッジが構造化されていない
- 3 AIがナレッジの種類を識別できず
誤回答・不適切な業務処理のリスク
- 4 暗黙知(文書の趣旨・公開制限)が
AIに伝わっていない



✓ 本仕様書の解決策

- ✓ ナレッジを4階層に分類・構造化
AIが情報の性質を正確に識別
- ✓ メタデータで暗黙知を可視化
公開範囲・有効期限をAIに明示
- ✓ 人間とAIの合意事項(Agreement)
を確立し、誤処理を防止
- ✓ 組織間でナレッジを共有できる
データエコシステムを構築

仕様書の全体構成

本編

公共AIナレッジベース仕様書

- 目的・基本思想・用語定義・カテゴリ体系
- メタデータ概説・ID体系・ガバナンス・設計思想

16ページ

別紙1

カテゴリの分類一覧

- ナレッジカテゴリ(4階層分類コード)の詳細一覧
- 約150分類を定義

Excel

別紙2

メタデータ項目一覧

- メタデータ全128項目の定義・形式
- 入力ルール一覧

Excel

別紙3

コード仕様書

- CC/PC/ICコードの定義・採番ルール
- コードリスト

PDF

ナレッジの4階層カテゴリ体系

データ層 <i>Data Layer</i>	10.0.0.0 観測結果・事実など文脈を持たない未加工の値や記号の集合 気象データ・申請書個票・機械計測データ	リアルタイム APIでDB参照
情報層 <i>Information Layer</i>	20.0.0.0 データに意味・文脈が付与され、人間やAIが理解・活用できる形 統計書・広報誌・ニュース・レポート・案内告知	日次～週次 RAGへの取込
ルール層 <i>Rule & Policy Layer</i>	30.0.0.0 意思決定や再利用のために整理・体系化された手順・基準・方針 マニュアル・FAQ・法律・計算式・業務手順書	月次～半年 AIエージェントが業務処理
常識・背景層 <i>Common Sense & Background</i>	40.0.0.0 一般常識・業界知識・暗黙の前提知識・組織プロフィール 禁止用語集・専門用語・ユーザー属性情報	モデル更新時 LLMのベースモデル

カテゴリコードの構造と例

30 ■ 10 ■ 90 ■ 20

= ルール層 / 外部作成 / 計算式・アルゴリズム / 判定・意思決定基準

カテゴリコード記載例

10.10.40.0	データ層 / 外部作成 / 申請(受信)	給付申請書(個票)
20.20.30.0	情報層 / 内外提供 / 案内・告知	市報・広報誌
30.20.70.0	ルール層 / 内外提供 / マニュアル・FAQ	申請の手引き・FAQ集
40.20.10.10	常識・背景層 / 内外提供 / 組織基本情報	自治体の概要資料

メタデータ:暗黙知の可視化

メタデータが解決する暗黙知

有効期限 いつまで有効？

→ 発効・失効日時をメタデータで管理

公開範囲 誰が見てよい？

→ 公開範囲コード(DIS)で制御

信頼性 出所は信頼できる？

→ オーナーID・AI作成フラグで明示

依存関係 根拠となる法令は？

→ 上位・下位ナレッジIDで連携

メタデータ 11グループ・128項目

■ フォーマット識別	2項目
■ ナレッジの識別	22項目
■ オーナーの識別	12項目
■ ホルダーの識別	11項目
■ 業種・業界・エリア識別	6項目
■ サービス・業務の識別	16項目
■ ナレッジベース管理	7項目
■ ナレッジのタイムライン	10項目
■ 開示の許可範囲	14項目
■ 関連するナレッジ	24項目
■ 証明書	4項目

メタデータ:主要項目の設計思想

識別・追跡



ナレッジIDは世界一意の不変ID。コンテンツIDとメタバージョンIDを組み合わせてレコードIDを自動生成。内容変更とメタデータ変更を厳密に区別して管理。

オーナー・ホルダー区分



ナレッジを作成した「オーナー」と、ナレッジベースに登録した「ホルダー」を明確に区別。国が作成したルールを自治体が活用する場合、オーナー＝国、ホルダー＝自治体。

タイムライン管理



発効開始・終了日時、参照許可期間、開示許可期間の3種類の時間軸で管理。AIが日時比較で自動判断し、古い情報の参照を防止。ISO 8601拡張形式で統一。

開示制御とセキュリティ



0:非公開 / 1:内部公開 / 2:限定公開 / 3:一般公開 / 9:廃止の5段階で制御。AIエージェントごとに「開示許可個人(AI)ID」で細かなアクセス管理が可能。

ナレッジ間の関係性



上位(根拠となる法令等)・下位(影響を受ける手順書等)・並列(関連する同階層)ナレッジIDで依存関係を定義。法改正時の影響範囲を即座に把握可能。

AI作成管理



AI作成フラグ(0:人間作成 / 1:AI作成 / 2:共同作成)で信頼性を明示。AI未確認フラグで人間レビューの有無を識別。AIによる自動登録にも対応した設計。

ID体系とバージョン管理

①
KID

ナレッジID

KID-20260401-
00000001

ナレッジのテーマを一意に
特定
不変の背番号(内容更新で
も変わらない)

②
KVer

ナレッジバージョンID

1.0 → 1.1 → 2.0

ナレッジ本文・ルール等の
中身が更新された際の版数

③
MVer

メタバージョンID

1 → 2 → 3

有効期限・公開設定等の
メタデータが更新された際
の版数

④
CID

コンテンツID

①KID + "-" + ②KVer

どのナレッジの、どの版の内
容かを完全に特定する複合
ID(自動生成)

⑤
RID

レコードID

④CID + "-" + ③MVer

特定の内容に特定の属性が
セットされたDB上の唯一無
二の最小単位(自動)

具体例:

有効期限のみ更新 → MVerが 1→2、レコードIDは「KID-20260401-00000001-1.0-2」

マニュアルを大改訂 → KVerが 1.0→2.0、新コンテンツID「KID-20260401-00000001-2.0」が生成

コード仕様: CC / PC / IC の3分類

CC

Consortium Code

管理: 公共AIナレッジ研究会

研究会が定義・管理するコード
ナレッジベース全体で共通使用

- ナレッジID(KID)
- カテゴリコード(CAT)
- 公開範囲コード(DIS)
- AI作成フラグ(AIF)
- バージョンID各種

PC

Public Code

管理: 国際標準機関・国・業界団体

ISO規格・法人番号等の公的コード
グローバルでユニーク・信頼性が高い

- 言語コード(ISO 639-1)
- 組織ID(国コード+法人番号)
- 業種・業界コード(JSIC)
- 住所・エリアコード
- 位置ポイントコード(GPS)

IC

Internal Code

管理: 各組織(オーナー・ホルダー)

組織が独自に管理・付与するコード
組織内でユニークであればOK

- 部署コード(DEPT)
- 個人コード(PERSON)
- 作成AIコード(AICD)
- サービスコード
- ターゲット分類コード

ガバナンスと運用体制

オーナー

ナレッジを作成した組織

主な責任

ナレッジの内容の
正確性・最新性の確保

記載するメタデータ

ナレッジ名/概要説明
発効日時/開示範囲
関連ナレッジ等

例:こども家庭庁
(国が法律・手順書を作成)

ホルダー

ナレッジをナレッジベースに登録した組織

主な責任

ナレッジベースへの
登録・管理・信頼性の担保

記載するメタデータ

ホルダー情報
メタデータバージョン
参照期間等

例:〇〇市
(国のナレッジを登録・活用)

システム管理組織

ナレッジベースシステムの運用・保守を担う組織

主な責任

ナレッジベースシステムの
運用・保守・配信管理

記載するメタデータ

システム管理組織ID
/名称/問合せ先

例:ナレッジベース
運用事業者

△ 原則:オーナーとホルダーは同一でも可。ホルダーはオーナーの承諾を得た場合、またはホルダーの責任においてオーナーのメタデータ登録を代行できます。

社会実装ビジョンと期待される効果

行政

- ✓ 定型業務の自動化(申請処理・審査・チェック)
- ✓ AIによる案内・相談・申請受付
- ✓ 正しい・最新のナレッジを組織間で共有

企業

- ✓ 行政手続き効率化・コスト削減
- ✓ 業務のスピードアップ
- ✓ 行政との連携強化

住民・市民

- ✓ 行政サービスの利用が簡単に
- ✓ 行政情報の信頼性向上
- ✓ AIによるデジタル格差の解消

社会実装に向けた設計の特徴

 組織間連携:異なる自治体・民間企業間でナレッジを相互利用できるデータエコシステム

 グローバル対応:ISO規格を採用し、海外組織との連携も視野に入れた国際標準設計

 将来の拡張性:カテゴリ・メタデータ項目は追加・改訂に耐えうる拡張性を持つ設計

まとめ

仕様V1.0の主要ポイント

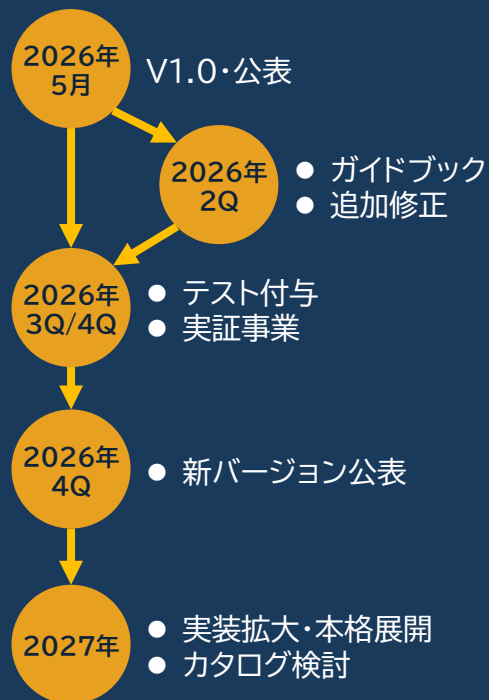
- 1 ナレッジを「データ・情報・ルール・常識」の4層に構造化し、AIが性質を正確に識別できるよう設計
- 2 メタデータ128項目で人間の暗黙知を可視化。有効期限・公開範囲・依存関係をAIに明示
- 3 5種類のIDで内容変更とメタデータ変更を厳密に区別。バージョン管理を完備
- 4 CC/PC/ICの3種類のコード体系でグローバルな相互運用性と組織の独自性を両立
- 5 オーナー・ホルダー・システム管理組織の3者による明確なガバナンス体制

今後の検討予定

今後の検討予定

- 1 公共AIナレッジベースの作成・活用方法のガイドブック作成
- 2 API・MCPIによるデータ参照、コード参照など、システム連携について、仕様を検討
- 3 ユニバーサルメニュー等、サービス分類の指定、カテゴリ分類・サービス分類のAIへの追加説明・定義の検討
- 4 実ナレッジ(ドキュメント)を使ったカテゴリ分類・メタデータのテスト付与
- 5 テスト付与・実証事業の結果を踏まえた仕様の修正・補足・追加

今後の展開



ご協力ありがとうございました

公共AIナレッジベース仕様 Ver.1.0

Public AI Knowledge Base Specification

ご質問・ご意見をお聞かせください
本仕様書はVer.1.0として完成しました。
皆様のご活用と継続的なご意見をお待ちしております。

発行 2026年5月28日

公共AIナレッジ研究会事務局

担当 福田次郎

Email : info@trustedfor.ai

©2026 公共AIナレッジ研究会 本文書の無断複写・転用を禁じます。

公共AIナレッジ研究会の会員は、運営委員会が別途定める利用規約の範囲で利用することができます。